

アナログプレーヤーのノイズ退治

結論から言えば完璧には出来ませんでした（苦笑）。

しかし、実用上はこれでもいいか、このまま使い続けてもまあいいのではないかというレベルにはなりました。

まず対象となったシステムですが、モノラル用のサブシステムです：

オーディオテクニカ AT33MONO→デノン DP-A100→オルトフォン 6NX-TSW 1010R→
デノン PMA-2000SE→ELAC BS243

元々2000SEに内蔵されているフォノイコのS/N比はMMが89dB、MCが74dB（入力端子短絡）とあまりよくはなく、音量ボリュームを上げてゆくと10時位の位置からかなりはっきりノイズが出てきます。ちなみにこの仕様は2000IVでも2000REでも同じです。

今回気になりだしたノイズはDP-A100の電源を入れると発生しアンプのフォノイコノイズに上乗せされる分、卓越周波数は160Hzです。

これを何とか出来ないものかとジタバタした次第でした。デノンのお客室相談室の結論はこのプレーヤーの電源を取る場所を変えたらどうかということでした（中村さん丁寧な対応有り難うございました）。しかしこれは既に試してみて効果はありませんでした。

デノンのお客室相談室とやりとりをしながら偶然発見した対策が「アンプ側のアース端子のみを外す」という工夫でした。

精密騒音計 NA-28 で測ってみますと、BS243のウーファから約10cmの至近距離で、アース端子を接続した場合が60dB@160Hz、アース端子を外した場合が53dB@160Hzです（ボリューム位置は12時）。直感的にこれなら「イケル」と感じました。

しかしプレーヤー側のアース端子も外してしまうとノーマル接続よりヒドイことになります。またプレーヤー側のアース端子のみ外すやり方も全くダメです。何故こうなるのか？その理由は全く分かりません。

ちなみにシステム側に求められるトータルのS/N比はどの位かということ、60dBが一応の目安かなと思っています。つまりMax.90dB～95dBで鳴らしたとすれば、ノイズレベルは30dB以下であってほしいということです。60dBあれば一応クラシックも何とか聞けるということです。あとはレコードのコンディション次第です。

改めてスピーカーの正面 1m からノイズを測定してみますと、30dB 以下になっています
またノイズの音質がやや低くなり、周波数帯も散らばった感じになっています。つまり
ノイズは聴こえますが、あまり気にはならない。まあ当面はこれでよしということに致し
ました。

アナログレコードをプレイする場合、どうしても一度は「ノイズ」の問題に遭遇すると
思われます。

人間の聴覚とはやっかいなもので、本当に微かな音でも気になりだすと聴きとってしまう
からです。音のレベルがどうのこうのという事では済まなくなります。

そして、このアナログシステムのノイズが本当にやっかいな理由のひとつが、原因の特定
が極めて困難だということです。

一体何故こうなるのか訳が分からず、そのままにせざるを得ない場合も多いし、運よく
(偶然?) 直せたとしても、同じやり方が他の場合にも通用するとは限りません。全くの
ところ決め手が無いというのが現状です。

私からのアドバイスは、

- 1 考えられる限りやれる限りの可能性を調べて、それを測定して数値データを眺むこと。
言い換えれば冷静であろうと努めること。
- 2 ノイズの音質にも注意を払うこと。音圧レベルが同じでもあまり気にならない、音楽
を邪魔しないノイズなら我慢しようではないか

ということになります。

以上